

Contents

- 新しい生物多様性国家戦略について
理事 中静 透
- ソバの実りを豊かにする生物多様性
- 活動紹介
- 自然保護助成基金助成先のご紹介
 - ・にいがたダイバーシティネットワーク
 - ・新潟ライチョウ研究会
- 8・9月のプログラムのご案内



高谷池から火打山を望む

新しい生物多様性国家戦略について

理事 中静 透

2010年に名古屋で生物多様性条約の第10回締約国会議（COP10）が開催され、愛知目標という世界全体での生物多様性に関する目標が定められ、現在の日本の生物多様性国家戦略はそれに沿った内容となっています。本来ならば、2020年に第15回締約国会議（COP15）が中国で開催され、愛知目標の達成度を評価するとともに、新たな目標が決定されるはずでした。しかし、新型コロナウイルスの影響で、最終的には2022年の秋ごろになるだろうと言われています。日本の新しい生物多様性国家戦略も、それに合わせて議論が進められています。

世界全体の大きな方向性として、現在は減少あるいは劣化しつつある状況を2030年までに逆転すること（ネーチャー・ポジティブ）が目指されています。そのためには、たとえば愛知目標では陸域の17%、海域の10%を保護地域にするという目標だったのですが（日本はこの目標を達成）、2030年までには海・陸とも30%にするという目標が議論されています。とはいっても、国立

公園や県立自然公園など既存の保護地域を10年間で10%も上乘せするということはとても難しいのが現状です。そこで考えられているのが、OECM（これまで以外の手段による保全に有効な地域）です。現在、どのような仕組みが適しているか議論が進められていますが、里山活動のように、企業や団体が所有し保全などに協力する地域はその有力な候補に挙げられています。こしじ水と緑の会が管理している里山などは、こうした保全地域に取り上げてもらえるのではないのでしょうか。

また、企業の原材料の調達や活動が自然に対して与える影響について、それぞれの企業が自分自身で調査をして、その情報を公開するという方向性が明確になってきました。金融機関は、その情報をもとに融資の判断をするようになっていきます。この動きは、最初は気候変動のような二酸化炭素の排出に関わって行われていましたが、この数年で自然や生物多様性に関しても同様の動きが急速に進んでいます。自然に影響を与えやすい原材料を調達している企業では、

より自然に優しい方法で原材料を調達していることを、内外に示す必要があり、その仕組みの中でもOECMのような仕組みが利用されることもあるだろうと思います。

もうひとつ、大きな柱となりそうなのが、NbS（自然を利用した社会問題の解決）です。たとえば、津波や高波、洪水などの被害を減少させるためにはコンクリートの堤防だけに頼るのではなく、森林や自然の地形を利用することもできます。そうすることで同時に地域の美しい景観や独特の生き物を保全し、あるいは地域文化を保つことが可能になる場合もあるでしょう。また、現在問題になっているコロナウイルスのような人獣共通感染症の発生も、森林などの生態系が急速に減少した地域で発生しやすいことが分析されており、地域の自然を保つことの効果が見直されています。地球全体では、水やエネルギー、さらには貧困の問題なども、自然を利用した解決の方法がもっと検討されるべきだと言われるようになりました。

こうして、生物多様性の問題は、「生き物を守ろう」というだけではない、私たちの生活や行動そのものを見直すような方向で考えられ始めています。新しい国家戦略は、そう

した点が反映されたものになる予定です。

(国立研究開発法人

森林研究・整備機構 理事長)



左：トキワイカリソウ（滋養強壯）、中：ユキツバキ（健胃・整腸）、右：カタクリ（風邪・下痢）、里山の植物は薬としても利用されてきた。

ソバの実りを豊かにする生物多様性

森林は豊かな生物多様性をささえています。それが人間の生活にも貢献していることは、あまり知られていません。ソバは、日本人なら誰もが知る美味しい食材です。当財団のある長岡市越路地域でも栽培が盛んです。国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所は、中山間地で栽培されるソバの実のつき具合（結実率）と生物多様性との関係を調べ、その結果を平成22年に公表しています。

森林総合研究所のプレスリリース「森林の生物多様性がソバの実りを豊かにする-花粉を媒介する昆虫の多様性が結実率を高める-（平成22年11月16日）」によると、森林や草地など昆虫の多いところが周りにあるソバ畑では、花粉を運ぶ昆虫の数が多く、ソバの結実率が良くなることが明らかとなっています。これは、森林などの生物多様性の高い場所の存在が、農産物の生産に貢献していることを示す事例です。

森林を守ることは、生物多様性を守り、ひいては人間の生活に貢献することにもなるのです。

(事務局)



中山間地のソバ畑 写真提供／中静透氏

活動紹介

春に開催した「春の里山に親しむ会」、「ツリークライミング体験」の様子をご紹介します。コロナ禍ということで、今年もマスク着用です。皆さんの笑顔を見られる日が早く来ることを祈っています。

1. 春の里山に親しむ会 (2022.4.29)

地元越路地域の渡辺茂さん(植物同好じねんじょ会)を講師にお招きし、塚野山の「越路の森」で開催しました。今年は山菜など食べられる植物を中心に、春の里山をご案内いただきました。



ウコギごはんにする「ウコギ」



説明する講師の渡辺茂さん



春は新芽、秋は実を食べるミツバアケビの花



アンニンゴ(ウワミズザクラのつぼみ)の塩漬け

2. ツリークライミング体験 (2022.5.3)

今年も空中散歩を楽しみました。アンケートで「高い所からの景色がきれいだった」、「風の音が良かった」、「木といっぱいお友達になった」などの感想をいただき、非日常の体験だけでなく、自然と仲良くなることも出来ました。



助成先紹介

にいがたダイバーシティ
ネットワークの取り組み

浅野涼太

にいがたダイバーシティネットワークは新潟市を中心に自然環境やそれを土台とした文化に関連する施設や行政機関、教育機関などによって構成されています。そのため、メンバーは水族館から植物園、博物館、公園の管理者、県、市、大学、短期大学の職員・講師等と多様な顔ぶれとなっています。

こうした多様なメンバーが集まり情報の交換を行うことで各施設や地域が持つ課題を共有し、解決に向けた連携を進めていくというのが当会の設立目的です。今回はそのいくつかの取り組みを紹介したいと思います。

ちよ〜生きもの発表会の開催協力

幅広い世代に新潟県の魅力の一つである自然環境やそこに暮らす生きもの、それらを利用し、共生してきた文化について、広く、深く知ってもらいたいとの思いからスタートしたのが「ちよ〜生きもの発表会」です。

新潟県内には動植物の調査・研究をしている施設や団体、学生、個人

の方々がたくさんいらっしゃいます。そうした皆さんのお話を誰もが自由に聞くことができる発表会を4年前から開催し、昨年でついに4回目を数えました。これまでにキノコや植物、昆虫、カタツムリ、両生類、鳥類、哺乳類など幅広い生きものを対象に発表を実施してきましたが、どの生物もとても魅力的で興味深く、

実施後のアンケートでは「身近な生物でも知らないことがたくさんあることを知った」や「家の周りでも観察してみたい」などの嬉しい声をいただくことができました。参加者の中には各団体の発表を聞いて団体に入会する方もおり、わずかではあります。人が人とつながりをつくることができましたのではないかと思います。

特に嬉しかったのは生きもの好きの子ども達の参加です。中には開始の10時から終了の16時過ぎまで熱心に発表を聞いている子や積極的に質問をする子も見受けられ、これからの成長がとても楽しみです。ちよ〜とした成果ではありますが、今後もちよ〜生きもの発表会を継続していければと考えています。

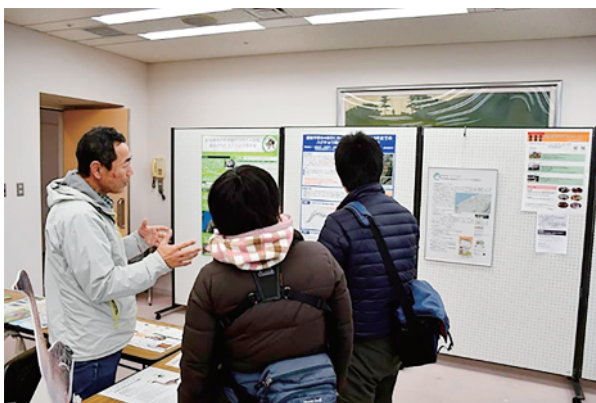
新潟発 お家で過ごす応援プロジェクト
エクト

2020年の春はコロナ禍により、外出を自粛するご家族がたくさんいました。そんなお家で過ごす子ども達に何かできないかと知恵を絞り、実施されたのが「新潟発 お家で過ごす応援プロジェクト」です。

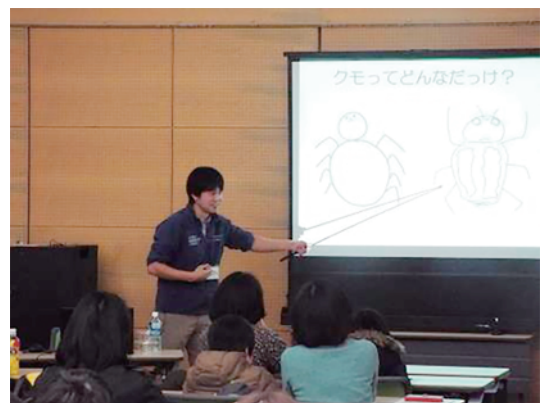
このプロジェクトでは、にいがたダイバーシティネットワークのメンバーである各施設の動画や工作、ぬり絵などといった様々なコンテンツのリンクを新潟市のホームページにて公開いただきました。現在でも閲覧することができますので是非興味がある方は覗いてみてください。

<https://www.city.niigata.lg.jp/smph/kurashi/kankyo/oshirase/nd-net-project.html> (2022.6.1 アクセス)

この他にも各メンバーである施設の活動展示会の開催や中高生を対象としたジュニア学芸員講座の開催など、これまでに無かった連携事業を実施してきました。今後もこうした連携活動を継続していくことで、少しでも新潟の自然環境や文化に興味関心を持つ方が増えていっていただければと思っています。



展示物解説の様子



ちよ〜生きもの発表会の様子

助成先紹介

新潟ライチョウ研究会の紹介

新潟ライチョウ研究会
代表 長野康之

新潟ライチョウ研究会は、私がかつて勤務していた国際自然環境アウドリア専門学校（妙高市）の卒業生数名とともに、高山生態系やそのシンボルともいえるライチョウの保全に貢献することを目的として2019年に立ち上げた任意団体です。主な活動場所は妙高市と糸魚川市にまたがる火打山で、ライチョウの個体数カウント調査や、近年進出してきているシカやイノシシといった動物の実態調査を実施しています。

人類が早急に解決しなければならぬ喫緊の課題の一つが地球温暖化であることは、ゼロカーボン、SDGsといった言葉が少しずつ浸透するようになって、ようやく日本の社会でも認知されるようになってきたと感じます。温暖化の影響は北極・南極などの高緯度地方と高山帯に真っ先におよぶことはかねてより知られていましたが、この中で高緯度に位置しない日本で該当するのは高山帯です。高山生態系の衰退は温暖化による気温上昇のほか、CO2の濃度上昇で活性化した光合成による植物の繁茂や、ディーゼルエンジンな

どに由来する窒素酸化物や耕地の施肥による気体アンモニアが上昇気流で運ばれて降雨と共に降下し、窒素肥料として働く富栄養化などによってもたらされることが近年の研究で明らかにされています。

一方で、1970年代以降狩猟者の数は減り続け、捕獲されるシカやイノシシの数も減少しました。それに伴ってこれら大型哺乳類の個体数が増加するとともに分布域も広がり、各地で農林業被害のみならず貴重な植物種を絶滅させるなど、生物多様性にも負の影響をもたらしています。高山帯にも進出し、火打山でも20



写真1 調査地の火打山

13年にこれらの動物の糞といった痕跡が確認されて以降、毎年のようにセンサーカメラ等での確認が続いています。こうした変化が火打山のライチョウや高山生態系におよぶ影響については良くわかっていません。炭鉱のカナリアとして、ライチョウの現状をモニタリングしていくことは高山生態系の健康度チェックとして重要であると考えています。Google Scholarという文献を検索するサイトのトップページには「巨人の肩の上に立つ」とあります。これは先人たちの業績などを巨人に喩え、新たな知見もこれらの積み重ねの上に構築されることを端的に示した言葉とされています。これまで蓄積されてきた知見を謙虚に学び、現状をきちんと把握した上で問題点を明確にし、その上で私たちにできることを実行していく。これが、今私たちにできること、するべきことと認識しています。弱小任意団体ではありますが、高山で今何が起きているのかライチョウの声を聞き（調査をし）、その結果をライチョウに代わって発信していく。ライチョウの代弁者として成果を発信できるようになるまでにはまだまだ時間がか

かりそうですが（調査を継続すること自体が大変です）「Think Globally, Act Locally」（地球規模で考え、地域で行動しよう！）を実現すべく、これからも細々ながらも調査活動を「継続」していきたいと思っています。

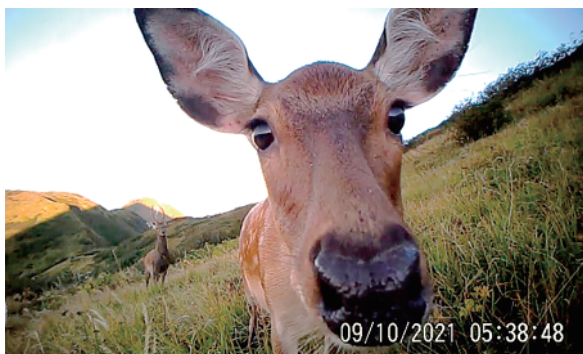


写真3 近年、火打山にも進出してきたニホンジカ（メス・オス2021.9.10撮影）



写真2 火打山で確認されたライチョウ（2021.10.22撮影）

8・9月のプログラムのご案内

ご家族向け自然体験プログラム「昆虫観察会」

専門家の指導をいただきながら、楽しく草地や水辺の昆虫を観察します。

日 時 8月27日（土）9：00～12：00／集合：巴ヶ丘自然公園（長岡市来迎寺甲816）
 講 師 鈴木誠治氏（昆虫はかせネットワーク）
 募 集 お子様とご家族20名
 参加費 ￥300（当会会員￥200）
 申込締切 8月24日（水）

大人向け座学プログラム「里山自然教室」

専門家から植物、動物についてお話いただき、自然への理解を深める講座です。

①「秋の草花」9月3日（土）10：30～12：00

講 師 櫻井幸枝氏（長岡市立科学博物館学芸員）

②「里山・里川の生きもの」9月3日（土）13：00～14：30

講 師 井上信夫氏（生物多様性保全ネットワーク新潟）

会 場 こしじ水と緑の会 緑の家（長岡市朝日595-5）

募 集 自然に興味のある方15名（中学生以上）

参加費 ￥300（当会会員￥200）

申込締切 8月31日（水）

お 申 込 事務局まで参加される方のお名前、住所、電話番号をお知らせください。後日、事前のご案内をお送りいたします。

TEL・FAX：0258-92-5238（平日9：00～17：00）メール：info@koshiji-nf.org

- ・当日37.5℃以上の発熱や体調不良がある場合は参加をご遠慮ください。
- ・コロナウイルス感染拡大の状況などにより中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

編集後記

今年は3年ぶりに長岡花火が開催されます。「待ってました！」と思われた方も多いのではないのでしょうか。私もそのうちの一人です。有料の観覧席のみとなったり、飲食を控える必要があるなど制約は多くありますが、ポストコロナに向けて一歩前進と言えましょう。

夜空に大輪の花が咲き、その迫力ある音でコロナウイルスが吹き消えてくれることを期待しながら、夏の夜を楽しみたいと思います。

（拓）

ご寄附ありがとうございました

（2022年3月1日～2022年5月31日、敬称略・順不同）

朝日酒造（株）、長谷川陽介、関口政則

会員動向（2022年5月31日現在）

会員450名（個人388、法人62）

引き続き、ご支援のほど宜しくお願い致します。

公益財団法人

こしじ水と緑の会



本誌は再生紙を使用しています
植物油インキを使用しています

〒949-5412 新潟県長岡市朝日595番地5 電話・FAX 0258-92-5238
HP <https://www.koshiji-nf.org> E-mail info@koshiji-nf.org